

議会のあり方調査特別委員会 政策等検討分科会 記録

開 会 年 月 日	令和 6 年 9 月 5 日
開 会 時 刻	午前 10 時 00 分
閉 会 時 刻	午前 10 時 49 分
出 席 委 員 名	◎辻 孝記 ○大西要一 中村 功 鈴木豊司
	楠木宏彦 西山則夫 浜口和久 宿 典泰
欠 席 委 員 名	なし
署 名 者	—
担 当 書 記	奥野進司
協 議 案 件	1 予算・決算審査のあり方について
	2 政策立案・政策提言について
説 明 員	奥野議事係長、森田書記

会議の概要

辻会長が開会を宣告。その後、直ちに会議に入り、「予算・決算審査のあり方について」外1件を順次議題とし、協議を行い、分科会を閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

協議の内容

1 予算・決算審査のあり方について

始めに、辻会長から、資料1、予算・決算審査調査分析表については、前回（6月17日）の会議での意見をまとめ、利点・長所の意見については「○」、課題・欠点の意見については「×」、その項目についての意見については「・」を記載していること、所属希望については意見がなかったため、いつ、どのように決めるのかを、これまでの例を参考に記載している旨発言の後、意見を求めたところ、鈴木委員から、13名程度の特別委員会方式の参加議員について、ドント方式では一人会派の議員は参加できないことは発言をしたが、大きな会派は同じ人が両方参加することは言っていないこと、また、これまでの経過で、審査方式を変更した理由、経緯を改選後の議会に伝えることを希望する発言があり、奥野議事係長から、資料1については、訂正すること、審査方式を変更した理由については調べる旨の発言があった。

次に、管外行政視察で、茅ヶ崎市議会、藤沢市議会、横須賀市議会を視察し、各市議会の取組についての感想、意見を求めたところ、下記意見があり、これらの意見をまとめることとした。

【発言】

- ・ 浜口委員…… 視察に伺った市議会は分科会方式が多かったが、小委員会での決算審査に加え、選定した評価対象事業の審査、事業の評価を分科会で行う市議会もあり、日程が増えるなど、プラス面もあれば、マイナス面もあった。
- ・ 楠木委員…… 常任委員会のメンバーで分科会をつくるところが多かったが、分科会方式を取らず、委員の選出の仕方も、予算と決算では違うところもあり、面白く感じた。予算と決算審査では、審査の方法について考える必要があると感じた。当市は分科会方式を採用しているが、常任委員会の中で専門的な議論もするため、予算・決算審査については、広く市民からの意見を吸収し、議論できる形が必要である。
- ・ 中村委員…… 分科会方式でも、伊勢市と違った審査の仕方をしており、参考になるなとは感じたが、まねをするのではなく、伊勢市にあった形を考えていかなければいけないと感じた。
- ・ 鈴木委員…… 審査の方法については、やり方に工夫は必要かもしれないが、全員参加の分科会方式がベストであると感じた。ただ、決算審査から監査委員2名が外れる件については、監査意見書に名を連ねる議員だけでよいのではないかな。
- ・ 宿委員…… 視察では、審査においてどれほどの議論がされているのか分からず、分科会方式でも専門性が発揮されているのか分からなかった。議員として、

4年間でどの分野においても質問をし、議論をし、今足りないものはどう
いうことかということを協議していくことは必要。分科会方式しか駄目と
は感じられず、以前の11名から13名の特別委員会方式で行うべきと感じ
た。

- ・西山委員…… 分科会方式、13名の特別委員会方式など変わってきた経緯があり、これ
を検証する必要がある。視察の場合、議員通しで議論するわけではなく、説
明・報告を受け止めるだけ、事務局との議論となるため、方式の見極めに
限界がある。
- ・大西副会長… 決算審査は、審査内容を翌年度予算に反映することを大きな目標として
いると考え、分科会方式の中でも、議会の意見が翌年度予算へ反映される
工夫が必要ではないかと感じた。
- ・辻会長……… 分科会方式を採用していくのであれば、分科会方式から、それを政策提
言につなげていけるのかどうか、予算決算の審査において、その結果とし
て、行政当局に対して意見を申し出ていく、そういった議会としての取組と
いうのが一つ必要になってくるのではと思う。

2 政策立案・政策提言について

辻会長から、神奈川県秦野市、茅ヶ崎市、藤沢市、横須賀市での視察を踏まえ、「政策
立案・政策提言」について意見を求めたところ、各委員から下記のとおり意見があり、
これらの意見をまとめることとした。

【発言】

- ・楠木委員…… 予算審査にしても、決算審査にしても、議会としての市当局への何らか
の力が示せるような議論ができないといけないし、市の政策に対する変容
を促せるような、市民の意見を反映して意見を申し上げる、そういう力強
さが必要だと考える。今の常任委員会が、そのことをできているのか、政
策提言という方向で議論を深め、そのような力を持っていくことができる
のか、そのことも考えていかななくてはいけないと思う。
今すぐにこの伊勢市議会で何かしようかなと思うと、各会派、あるいは、
何人かの有志で提案をしていく、それを全議会の議論にしていくというこ
とが、可能性としては1番、あるのかなという感じがする。
- ・中村委員…… 現在の伊勢市議会では政策立案、政策提言ができるのか、議員の質、気持
ちがそこまでいっていないのが現状ではないかと思う。
もし、絶対にいけないといけないという動きになってきた場合、やは
り、常任委員会でやっていく方法が一つの手段であるのかなと思う。
1回行くと、ずっと継続していけないといけないため、項目の選定も含
めうまくいくのか、そのように感じた。
- ・鈴木委員…… 伊勢市においては、政策立案・政策提言実施要綱をつくっており、体制
は整っているが実績がない。今回の視察を通じ、伊勢市議会としての姿勢、

また議員個々の認識が少し低いのかなと感じた。

- ・浜口委員…… 視察をして、政策立案、条例まで持っていくのは本当に難しいと感じた。伊勢市の場合、まずテーマを出し、選定するところから、また事務局のサポート体制がどこまで取れるのかという部分で、まだハードルがあるのかなと感じた。また、議員の個人レベルを上げていく必要を感じた。
- ・西山委員…… 政策の立案及び提言は議会基本条例にも規定されており、行う必要がある。ただ、項目の選定など、事務局に大きな負担がかかることもあるかもしれないため、もう少し整理をしてから取り組んだ方がよいと考える。
- ・宿委員……… 伊勢市の課題は何なのか、常任委員会の中で共通認識を持たないとスタートできない。政策立案・政策提言について、議員の能力の問題のことも言われているが、新人議員にとっては分科会方式では伊勢市全体のことはなかなか勉強できないと考え、予算決算審査のあり方にも影響すると考える。
- ・大西副会長… 機運、雰囲気、それを醸成して、例えば、常任委員会で考えるのか、もしくは、仕組みをつくり、計画を立て、政策提言・立案につなげていくのか、いろいろある。今回の視察先以外にもいろんな仕組みがあると思うため、ほかのところも参考にし、政策提言を実行していけるようになればと思う。
- ・辻会長……… まずはやってみることかなと考える。ただ、課題について常任委員会で議論をし、政策提言としてまとめることも一つの方法であるが、常任委員会の任期が1年であることから、常任委員会が決定した段階から、いつまでにテーマを決めるか、そういった議論をすることが大切。スケジュールについては、政策等検討分科会で考えていくべきなのかなと考える。

上記署名する。

令和6年9月5日

会 長